

2020 (令和2年) 2月1日発行

発行者: 大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部: 〒544-0013 大阪市生野区巽中4-19-19 tel 080-5702-1543 (編集責任者: 広報部 田隅)

一期一会今を楽しみ最善を尽くす

大阪府釣りインストラクター連絡機構副代表

綿井良隆



寒さ厳しい季節ですが、皆さんお元気で過ごしてですか？毎年、冬になれば中紀の大引漁港から白浜あたりにかけてルアー(ワーム)でのガシラ釣りに出かけ楽しんでいるのですが、最近はジグヘッドに虫餌(イソメ)やオキアミをセットした仕掛けて釣果を伸ばしています。

生餌ならではの反応と衝撃的なアタリが楽しく、また食味が良いガシラは家族も大喜びで寒さも厭わず通っている次第です。さて、昨年来田さんが他界され偲ぶ会も滞りなく終えたあと、バス釣りのトーナメント運営で兵庫県の生野銀山湖に出かけました。西日本各地の上位の選手が最後に集合する大会で、地元の市長も挨拶に来られる盛大な行事です。

その初日の土曜日、選手がスタートして30分後に緊急の電話が入りました。

湖に出ている選手からの電話で、「近くのボートの選手が倒れていて意識がない、ボートから落水しそうなので何艇かで囲み選手が落ちないように押さえている」という連絡でした。

とりあえずは「絶対に動かすな」と命じ緊急用のエンジンボートで救援に向かわせ、同時に地元の救急に連絡し救急車の手配をしました。

救援ボートよりも先に救急車が到着し、その隊員が6人がかりで栈橋から救急車まで患者を運び近くに到着済みのドクターヘリに乗せることができました。

50kmほど離れた豊岡の病院で治療されたのですが、想像していた通り脳の血管が破れて意識を失われたとのことでした。

翌日のご家族からの連絡では、言葉は出にくいですが意識は戻ったということでした。

本当に安堵した次第です。適切な処置と、スタッフの連携、迅速な救急体制が救った命だと思っています。

来田さんが亡くなられた後のことでもあり、「命」ということを考えさせられる出来事でした。

人間も生き物である以上、お別れすることが前提の人生なんですね。ご縁があった方と良いお別れをするために、あと暫くかもしれませんが良いお付き合いをさせていただけたらと思っています。今後とも、よろしく願いいたします。

報告 1

2019水辺環境保全活動に参加しかもめ大橋下を清掃(R1-12/14)

12月14日(土)、大阪港の立入禁止としない区域(釣り開放区)のひとつであるかもめ大橋下でおこなわれた、日本釣振興会大阪府支部主催の水辺環境保全活動に、JOFI大阪メンバー4名で参加してきました。

清掃活動用に開放されたかもめ大橋下の駐車場に8時30分集合。参加は総勢25名程度で風もなく、12月とは思えない穏やかな朝でした。9時より、主催者挨拶の後、トンゴ、ゴミ袋、手袋、スコップなどが配られ、清掃活動がスタート。

海辺での作業ですので、ライフジャケットが必須です。橋の下をくぐり、道中の草むらに捨てられた空き缶やペットボトル、レジ袋などを回収しつつ、波止へ。一見、きれいに見える波止も、隅の方には大量のゴミ。季節柄、タチウオ釣りに関係のゴミが多く、ケミホタルやきびなごの空パック、市販仕掛けのパッケージのほか、絡んだライン、ビニール袋、空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻などが折り重なり、回収中の臭いも強烈でマスクが欲しいほどでした。このようにゴミがひと所にまとまるのは、少しでもゴミが溜まると、「みんな捨てているから」と罪感が薄れ、ゴミ捨て場のようになるのでは……ゴミを捨てる行為は、捨てたゴミが、新たなゴミを呼んでしまうのも大きな問題かと思えます。



潮が引いた波止の内向きには、ブイなどで使用されていたであろう発泡スチロールと、それが粉碎されて粉状になったものが多く、

昨日話題のマイクロプラスチックが生まれる過程を見るようでした。こういった細かなゴミはトンゴやスコップでは思うように回収できず、主催者に今後、ほうきとちりとりを準備してもらおうようお願いしておきました。1時間ほどの清掃で回収したゴミの量は、正確に数えてはいませんが70リットルのゴミ袋50個分ほど。橋の下に不法投棄など、大量のゴミがあったこともあり、それほど広い範囲でないにもかかわらず、相当量になりました。

そこそこきれいになった釣り場を見るのは、なかなか気持ちのいいもの。あと、当日も青物狙いの吞ませやジグを投げる釣り人、フカセ釣り、サビキ、アジングを楽しむ人で賑わっていましたが、ゴミを拾う私たちの姿を見て、何か感じてもらえればいいなと思いました。

(報告: 室井)



報告 2

来田仁成代表の偲ぶ会を開催(R1-10/5)

来田仁成代表死去に伴う偲ぶ会を10月5日土曜日、ご友人知人関係者78名にご出席いただき、大阪市内のダイワロイネットホテル四橋で開催しました。

発起人を代表し社団法人全日本釣り団体協議会会長山下茂様、財団法人日本釣り振興会副会長橋本俊哉様から、当日ご出席の皆様へ挨拶をいただき、またご来賓代表として水産庁初代釣り人専門官桜井政和様からご献杯のご挨拶をいただきました。

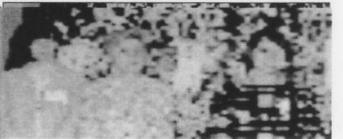
ご歓談中に麻生太郎副総理兼財務大臣、菅義偉官房長官他からの弔電等を紹介すると共に、スクリーンを利用し在りし日の活動を記録した写真や、インタビューを受けている動画を見ていただき、思い出を語り代表を偲んでいただきました。

つづいて、生前親交のあった株式会社大藤つり具取締役会長大藤勲様、日本釣りジャーナリスト協会会長で株式

会社釣り人社代表の鈴木康友様、「とれとれ魚信」の掲載をされておりました朝日新聞社総合サービス大阪支店長井川大三様からの思い出やお話し、また、ご友人やご親交のありました方々からのエピソード等をいただきました。

総合学園ヒューマンアカデミーフィッシングカレッジ責任者の山本有子様や同僚、卒業生の方からはカレッジではどのような講師であったのかを、ご家族の方も知らない代表の一面をお話しいただき、代表のあの笑顔と友人や私達会員を包み込む優しさを思い出しながら時間を過ごしました。

最後に、ご遺族から「有難うございました」とお礼の言葉があり、記念として執筆活動を取りまとめられた冊子「鯉を求む」をお渡しになり、偲ぶ会を無事終わることができました。(報告：事務局 物部)



報告 3

大阪湾磯遊び泉州サビキ釣りと魚拓教室を支援(R1-8/18)

泉州のミライを作る皆の会議(略称=センミラ会議)からの依頼を受け、8月18日(日)に大阪湾南端の岬町深日港で、JOFI大阪会員と協力者の12名で泉州サビキを使用した波止釣り教室と、魚拓教室を開催しました。

当日の天気は晴れ、気温は昼に34度となり真夏日。

当日受付された参加者は、大人39名子供17名合計56名。

開会式で主催者挨拶に続きインストラクターから安全に釣りをするための講習、「危険な魚」「釣り場でのマナー・ルール」を説明、その後全員が「ライフジャケット」を着用し、竿、リール、エサ、サビキ仕掛けを持ってそれぞれのグループごとにインストラクターが釣り場へ誘導。



センミラ会議釣り教室に参加された方々は「釣るぞ」との気合も強く、暑さも忘れて一生懸命頑張っておられるのを見ると、私達も参加者全員が釣れるよう釣り方の指導に大忙し。釣りが初めての子供達は、生きている魚を釣ることや見るのも触るのも初めてで、それぞれの家族は歓声を上げて写真を撮ったり、釣りを楽しんでおられました。釣果は、サバやアジその他グレとチャリコ等で、表彰式では一匹長寸で「サバは24.5㌔」「アジ19㌔」他漁の部では「グレ15㌔」で、各部門で一位から3位までを表彰し賞品と拍手を送りました。

魚拓教室も盛況で1時間30分位の間で12枚を作成、自分で釣った魚で魚拓が出来たことに記念になると非常に喜んでいただきました。最後に全員で記念写真を撮り無事おわる事ができました。(記事 高木)

報告 4

令和元年第二回 南港魚釣り公園護岸で魚拓教室(R1-9/15)

南港魚釣り公園護岸管理者からの依頼により、前回好評だった魚拓教室を9月15日(日)、今年度2回目の魚拓教室を開催しました。今回も準備中にもかかわらず釣り場への通路で来園者から魚拓教室についての問い合わせな

どがありました。

当日は早朝にそれなりの釣果がありましたが、魚拓教室開始の9時頃からはもう一つで「コサバ」15~22㌔5匹と「アジ」12~18㌔4匹、また叔父さんが釣られた「チヌ」48㌔1匹の魚拓を作成するにとどまりました。

釣り園にはファミリーで多くの来園者が来られ、魚拓に興味を持たれる保護者の方から墨の濃さや魚の方向等詳細な質問をうけ、答に困る所もありました。魚拓を作ることで保護者の方が子供と思いでを作ることへの喜びを感じておられる様子が良くわかりました。

魚拓作成中の待ち時間は、別のインストラクターが図

鑑でコサバやコアジのことや波止で釣れる危険な魚、魚釣りで知らない間に迷惑をかけている事などについて、子供と対話し時間を過ごしました。

(報告：辻)



報告 5

大阪市立弘済みらい・のぞみ園釣り教室(R1-9/22)

一昨年・昨年と2年間続けて台風接近のため中止になったみらい・のぞみ園の釣り教室。今年こそはぜひ開催したいとの想いも開催日5日前の天気予報では、沖縄地方や奄美地方の海上で非常に強い風が吹き、大しけになっているとのこと。また、台風の北上に伴い22日(日)から23日(月)にかけて西日本の広い範囲で非常に強い風が吹き、大しけとなるとの予報。

21日の予報では、台風が予報の進路より北向きとなり朝鮮半島への進路を取り、大阪では少し風はあるが曇り空との予報。昼過ぎ釣り教室を予定通り実施するとの園からのうれしい連絡。

釣り教室用の20本の竿にサビキとカゴをセットし終わったところ予定通り子供たちが到着し、

2年越しの釣り教室の開始。インストラクターの紹介後、参加者全員ライフジャケットを装着し、危険な魚の説明、釣りのマナーや釣り



方の学習、終了後待ちに待った実釣の開始。朝のうちは回遊する魚も少なく、たまにひいらぎの稚魚や小アジがかかる程度の釣果。何回か釣り教室に参加している子供が多くおまつりなどのトラブルも少なく、みんな釣りを楽しんでいる様子。

お昼にはインストラクターがこの日のために釣りに行き、持参した魚を天ぷらにし食べてもらおうと魚の調理や揚げるのに数人で奮闘。昼食後も個々に釣りを楽しんでいるとアジ・サバが時々釣れるようになったが2時前に釣りを終了し釣り教室の閉会式。川嶋インストラクターからの講評後、釣り教室参加者には修了書と参加賞を手渡し本年度の釣り教室を無事終了しました。(報告：田隅)



報告 6

寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室(R1-9/28)

令和元年9月28日(土)に開催した「寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室」は、参加した子供から「魚の釣れない釣り教室はないんちゃうん」と言われるとおり、全くアタリのない釣り教室でした。

昨年まではアジやコサバが釣れ釣果の良い釣り教室でしたが、今年は天気も良く釣り日和にもかかわらずサッパリ釣れません。釣果は、全員でサッパが2匹とボラが2匹掛かりましたがサビキ仕掛けのため途中でハリスが切れてしまいました。



参加者には魚釣りは自然との関わりがあり、釣れない日もあることを説明するのですがあまり理解はして貰えません。

朝10時頃南港魚釣り園護岸に到着し安全講習会を受けた後、釣りを開始し1匹も釣れない中、子供達はあきらめることなく魚が来るのを待ちましたがダメ、昼食を済ませてサッパリ魚は来てくれませんでしたので、少し予定を早め帰路につきました。(報告：川嶋)



報告 7

ファミリー海釣り大会2019が大阪北港舞洲緑地C海岸で開催(R1-10/27)

日本釣振興会大阪府支部主催、大阪釣具協同組合後援の「ファミリー海釣り大会2019」が10月27日(日)実施されました。私達、インストラクター4名も早朝6時30分に現地に集合し開催準備。開催場所の大阪北港舞洲緑地C護岸は、安全柵が設置されておりファミリーにとって安全な釣りが出来る釣り場です。

当日の参加者は105名で、子供達49名と保護者や一般参加者が56名、スタッフ20名とインストラクターを含む

と、総勢129名になりました。私達の仕事は、安全な釣りをするための支援指導で、初心者の方のサビキ仕掛けセットや参加者同士でおまつりをした時のお手伝いを行いました。この大会にエントリーされていない人達も釣りをされているので、指導の難しい所もありました。同場所でも水質調査を実施し、海水の現状説明をしながら支援活動を行い事故もなく閉会式を迎えることができました。また、指導の空いている時間に清掃作業も併せて実施しました。(報告：高木)

日本ボーイスカウト大阪連盟なみはや地区釣り章講習考査会 (R1-9/29)

毎年のことながら、今まで人の前で説明することなど少なかったのですが、自分の話をどこまで理解してくれているのか。また、理解度テストで自分が講義したところの正解率が気になります。昨年は持ち時間をオーバーしたので、今年は時間内に終わりたいと思いながらヤッパリ一言二言付け足したことで長くなってしまいました。釣り章講習考査前には担当の部分を読み、どのように話せば興味を示してくれるのかを考えます。

実釣では、ライフジャケットの着用を確認、その後班別に分かれ漁港に向かい岸壁で釣りの始まりです。



釣り始めは、新子の「ヒイラギ」が釣れていましたが、サバが湾内で釣れ始めるとみんな大騒ぎ。サビキ仕掛けに珍しく「カレイ」の25センチが釣れ担当のインストラクターが大あわて。また、「キビレ」の5センチ程度を釣りあげるスカウトもいて、楽しく実釣を体験することができました。スカウトの中には魚に触ることが初めてで、最初はタオルや軍手を使用して触っていたのに魚が釣れるごとに、徐々に触れるようになったスカウトも。

薄暗くなってしまいましたが、閉会式では「本日初めて釣りを体験したスカウトともいいましたが、この楽しさと命の大切さ隣人との挨拶等を忘れないで釣りを楽しんでください」と講評し無事終了。

年と共に人前で話すことの難しさを感じていますが、相手が理解し易く話すにはどのように話せば良いのかと思い、とても新しい経験を継続しています。(報告：物部)

2019年全国縦断チャリティ釣り祭り大阪府支部大会 (R1-10/19)

昨年は、開催準備後雷が発生し中止となりましたが、今年10月19日(土)の開催日は釣り日和となりました。主催はNBC全国縦断チャリティ釣り祭り実行委員会で、メインスポンサーは総合学園ヒューマンアカデミーフィッシングカレッジ、その他37社の協賛がありました。

開催場所の大阪府舞洲緑地シーサイドプロムナードC護岸には、参加者全員で55名、子供が13名大人42名のエントリーがあり、スタッフ24名、私達インストラクターも6名で魚拓教室と水質調査や釣り支援指導にあたりました。

水質調査では、同場所での水質調査を参加者と共に測定し、開会式で大阪湾の海水の実態を報告しまし



た。魚拓教室では、釣り上げた魚をその場で魚拓にすることができるので、親子での参加記念として大喜び、時間内にアジ5匹とチャリコ3匹の魚拓を作成しました。釣り祭りのMCを務める立川志らら師匠も人生初のマダイを釣り上げ、記録をバッチリと魚拓で残しておられました。

この釣り場は、交通の便や足場がよく安全で、ファミリーフィッシングに最適なフィールドなので、今年も多くのファミリー連れが参加されていました。

大会の状況は、いろいろな魚が釣れ「ツバス」がルアー釣りの参加者に、またメーター級の「タチウオ」も釣れるなど歓声が上がっていました。

その他、子供達に人気のあるサビキ仕掛けで「アジ」「サバ」も釣れ、参加者は楽しい釣りを満喫された一日だったと思います。(報告：山本)



淡輪ヨットハーバーで第19回バリアーフリー釣り大会を開催 (R1-10/26)

秋晴れで風も心地よい10月26日(土)、恒例となった淡輪ヨットハーバーでの第19回目のバリアーフリー釣り大会が開催されました。

主催の「NPO法人み・らいず」からの協力依頼があり、参加者が安全に魚釣りを楽しんでいただくため、釣り支援にインス



トラクター8名で参加しました。今年、釣り大会に来られた方は参加者17名とサポーター17名の総数34名、サポーターの方も釣りを楽しまれるとのこと。

その他スタッフや保護者10名、インストラクター等を含めると総勢52名となりました。



開会式では、安全な釣りをするために「すきすきフィッシング」を教材に、ライフジャケットの重要性や危険な行為、直接触ってはいけない魚など釣りの基本を学習。

実釣では事前に準備した竿やリールとサビキ仕掛け、エサや手洗い用のバケツを持って参加者1名とサポーター1名がペアになりサビキ釣りに挑戦。仕掛けがもつれたり魚が釣ればインストラクターがお手伝い。

今年も「アジ」「グレ」「イワシ」等入れ食い状態が続き、釣りの楽しさを体感され笑顔の絶え間がありません。閉会式の講評では釣れた魚を「から揚げ」や「骨センベイ」にして皆で食べたこと、その尊い命は食べることによって生かされること、この日の思い出がいつま

でも心に残るようにとお話をさせていただきました。

毎年のことですが、このバリアーフリー釣り大会を支援協力できることに、インストラクターであることの喜びを強く感じ、満足した一日が終了しました。

(報告:辻)



報告 11 日本ボーイスカウト大阪連盟かわち地区釣り章考査会報告(R1-10/27)

今年10月27日(日)に淡輪町立会館で開催し、リーダーを含め14名が受講。開会式後座学を開始し、「釣りの基本・安全確保とルールやマナー・つりの楽しさを知る」から始め、最後は「釣りの仕掛け実習」で終了。

実習では、作業過程や出来上がりの状況を見るとなかなか仕掛け作りが難しいように感じましたが、受講生のアンケートでは、とても楽しかったとの回答が多くありました。昼休みには昼食後に開始される釣り章の試験「理解度テスト」について、仲間たちと出題について話し合ったり、教科書を確認しているスカウトも。「理解度テスト」では、授業態度や実習の出来栄等も加算されますが、60点以上をとらないと淡輪港の実釣に進むことが出来ません。一回目の採点で全問正解者もいましたが、不正解部分を修正後再提出する受講者も、予定時間内に全員合格し実釣へ進むことが出来たので何よりでした。

漁港に到着すると、班別にライフジャケットの着用を相互確認し、実釣の開始。今年も、15時頃から開始しまし

たが、「ハオコゼ」や「ガシラ」等がたまに釣れる程度で、本命の「アジ」の回遊は少なく、時たま「アジ」や「イワシ」が釣れていました。夕暮れ前、内海側の船泊まり付近で15分前後の「アジ」と20分前後の「イワシ」が回遊してきたので、釣り場を変更し、全員が魚とのやり取りを体感することが出来ました。他の魚種も釣れ、釣り章の合格基準の「2魚種以上の魚を釣る事」と「名前と料理方法を示す事」で、全員合格することができ一安心。閉会式ではインストラクターから、皆2魚種を釣ることができて、釣り章合格おめでとう。釣れることを体感することも大切ですが、講義で説明したように、どのように仕掛けを作ったか、また、釣る魚は今何を考えているのかを推理しながら、釣りを楽

しんでください。これからも自然との対話をより進めることを目指してくださいと講評し考査会を終了。

(報告:南)



報告 12 泉南小島漁港水中清掃作業報告(R1-11/16)

天気にも恵まれた11月16日(土)に、今年度2回目の水中清掃を、日本釣振興会大阪府支部のメンバー9名と協力ダイバー12名、JOFI大阪インストラクター5名、総勢26名により泉南郡小島漁港で実施しました。

清掃作業の実施日を11月16日(土)と事前に決めていたので、小島漁港組合長との打合せでは、遊漁船等の予約が入っているため地元漁業関係者の当日の協力は難しいが、漁業組合の事務員さんの協力は得られることと。また、遊漁船午前便の帰港時間等の関係

係で11時30分までに清掃作業を終了することで実施を決定しました。



今回の水中清掃は船舶を係留させる側の半分程度と防波堤の裏側を行いました。当日は、釣り人も多く漁業組合からの張り紙と作業内容を説明し、釣り人には快く清掃作業時間内の釣りを中止し協力していただきました。清掃場所は水深4~7m程度で透明度も良く清掃作業はスムーズに行われました。見た目にはゴミは少ないようでしたが、敷地内にある釣り堀で釣りをされている人や、波止で釣りをされている方が多く、海底からは椅子15脚とビニールバケツ26個やサビキカゴ353個のゴミが回収されましたが、一般ゴミが主でありタイヤ、炊飯器、前回は回収されたバッテリーがあり、総重量は約180キロ程度のゴミを回収することができました。

(報告:物部)



岬町観光協会主催の第1回「親子釣り教室」開催(R1-11/17)



岬町観光協会主催の第1回「親子釣り教室」を大阪府青少年海洋センターで11月17日(日)に開催しました。

晩秋にもかかわらず当日は快晴でお昼ごろには気温も20度近くなり、温かくこちよい釣り日和となりました。

府立青少年海洋センターの協力のもと参加者親子、スタッフ合わせ総勢74名が集合。

開催にあたり田代堯岬町長から自然豊かな場所で釣りを楽しんでくださいとの言葉を頂き、次に主催団体の岬町観光協会四至本晴夫会長から「無事故での釣り教室を」との開会宣言があり、岬町親子釣り教室の始まり。

座学ではJOFI大阪の山本インストラクターが安全な釣りについて、石川インストラクターからは危険な魚について説明の後、実釣となりました。実釣では3家族ぐらいに分けインストラクターが桟橋に誘導、個々人が竿・サビキセット・アミエビ入りバケツを持って釣り場へ。風がなく釣りやすいなと思っていましたが現状は釣れにくく、最初に釣れたのは建物の日陰で釣っていた人が20センチほどのマアジを釣り、入れ食い状態となりました。

74名が桟橋で横並びに釣竿を出していましたが釣れる場所が限定され、1時間おきに釣り場を入れ替わることで全員が50匹以上の釣果となりました。サビキ仕掛けに40センチほどのマチヌが釣れ、仕掛が細く釣りあげることが出来ず右往左往、インストラクターがたも網を急いで用意し、魚を無事取り込むことが出来ました。魚拓教室では釣り場の入り口にテントを張り、4名のインストラクターが魚拓を取る作業に大奮闘。

釣り教室参加者が釣ったマアジ・ヒイラギ・チヌなど、合計30枚の魚拓を作成することが出来ました。

閉会式では、今回の親子釣り教室が無事故で、釣果もたくさんあり、みんなが満足。参加者から、このような楽しい思い出を作って頂いた催しを、これからも行ってくださいぜひ参加しますと言っていました。

(報告：高木)



10月20日(日)「水辺感謝の日」全国一斉・清掃デーに参加(R1-10/20)

当日は天気も良く風も心地良く、絶好の釣り日和。インストラクター4名が、日本釣振興会大阪府支部主催の全国一斉・清掃デーに参加しました。

参加されている人が非常に多く、ファミリーで子供連れのボランティアや釣り具販売店、そして釣り人達です。

最近、海の汚れについて取り上げたテレビ放映もあり、特にマイクロプラスチックゴミの生物への影響問題などの影響で、人々のゴミについての考え方が変わって来たのかも知れません。泉佐野食品コンビナート一帯での

清掃作業に参加し感じたことは、釣り場を利用している人は多いのに思ったほどゴミはありません。

しかし工場横の歩道には、ペットボトルやビニール袋、発泡スチロール箱が、放置されているのには驚きました。平成28年度の「水辺感謝の日」で、立ち入り禁止区域になっていた場所は、綺麗に整備され昔と同じように、多くの市民の方が楽しまれているのを見て安心しました。

(報告：塩見)



山崎勝彦相談役から近況の便り



釣会の船釣り大会に参加して早18年。大漁で喜び坊主で落ち込み、大雨や台風で船酔いに苦しむ、釣行は自然と生き物が相手であり、ままならないものです。

私は、4年前に緑内障で右目の手術をし昨年は、左目の手術を3回行い都合4回入院を繰り返して昨年の11月にやっと退院することができました。しかも平衡感覚が狂い釣行ができず会員の皆様にご迷惑をおかけしています。

現在は、趣味の温泉旅行とクルージング(客船の旅)を楽しんでいます。

昨年は、パシフィックビーナス号とサン・プリンセス号で沖縄や石垣島台湾のクルージングを楽しみました。(船酔いは全くありません) サンプリンセス号は75000トンと大きく20階建てのビルに相当し、長さは300 M 程度あります。食事は朝昼ともにバイキング、夜はフルコースのディナーで、モーニングコーヒー、アフターヌーンティー、夜食など至れり尽くせりで一週間で体重が3 kg も増えました。

日常は、散歩と体操で体力の維持に努め、時々小学校の放課後の子ども教室で壁飾りを作る教室に参加し、子供たちと一緒に楽しんでおります。

次の世代の方に頑張ってください大いに盛り上げてもらいたいと思っています。